

## 第13回（定例）兵庫県教育委員会会議録

### 1 開会・閉会の年月日時及び場所

令和3年10月21日（木）15:00～17:20

神戸市中央区下山手通5丁目

兵庫県教育委員会教育委員会室

### 2 会議に出席した者の職氏名

教育長	西上教育長	
教育委員	清水委員	牧村委員
	空地委員	横山委員
	並河委員	
事務局	西田教育次長	唐津教育次長
	吉田事務局参事兼総務課長	稲次教職員課長
	塚本学事課長	村田義務教育課長
	小俣特別支援教育課長	西田高校教育課長
	近都人権教育課長	北中体育保健課長
	橋本教職員課参事	

### 3 署名委員の指名等について

(1) 署名委員は、西上教育長の指名により、次のとおり決定された。

空地委員 横山委員

### 4 前回会議録の承認に関する件

#### 第12回（定例）兵庫県教育委員会会議録の承認

第12回定例教育委員会における教育長の報告1件、議事1件、報告事項4件の会議録について、吉田事務局参事兼総務課長が説明し、全員異議なく承認された。

### 5 議事

#### (1) 第43号議案

##### 公立学校教職員人事異動方針

公立学校教職員の人事異動方針について、稲次教職員課長が説明し、審議の結果、修正案により決定された。

#### (2) 第44号議案

##### 職員の給与等に関する条例等の一部を改正する条例制定に係る意見申出

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき、職員の給与等に関する条例等の一部を改正する条例制定に係る意見申出について、稲次教職員課長が説明し、審議の結果、賛成全員で原案のとおり決定された。

#### (3) 第45号議案

## 令和4年度公立高等学校生徒募集計画

令和4年度公立高等学校生徒募集に係る定員等について、塚本学事課長が説明し、審議の結果、賛成全員で原案のとおり決定された。

### (4) 第46号議案

#### 令和3年度兵庫県教育功労者表彰の受賞者決定

県下教育の振興に貢献し、その行為が広く県民の模範となるべき人々を知事が表彰し、その功績に報いるとともに、本県教育の発展に資することを目的とした標記表彰受賞者の決定について、稲次教職員課長が説明し、審議の結果、賛成全員で原案のとおり決定された。

### (5) 第47号～第51号議案

#### 教職員の人事

教職員の非違行為について、稲次教職員課長が説明し、審議の結果、賛成全員で原案のとおり懲戒処分5件が決定された。

## 6 報告事項

### (1) 令和3年職員の給与等に関する報告及び勧告の概要

令和3年10月12日に兵庫県人事委員会が行った標記報告等の概要について、橋本教職員課参事が報告した。

### (2) 令和2年度兵庫県下の公立学校児童生徒の問題行動・不登校等の状況

文部科学省が実施した「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を踏まえ、本県におけるいじめ等の状況や全国との比較、今後の対応等について、村田義務教育課長及び西田高校教育課長が報告した。

## 7 委員の主な意見及び事務局の説明

### (1) 公立学校教職員人事異動方針

(清水委員)

「風通しのよい」という言葉が抽象的でイメージしづらく感じる。

(稲次教職員課長)

「風通しのよい」という言葉は、ハラスメント防止で使ってきた言葉であるが、現在、従来の業務改善を中心とした「働き方改革」にハラスメント防止を加え「働きがいのある」という表現に換えており、委員ご指摘のとおり、続けて書くと誤解を生む可能性があると考えます。

(西上教育長)

「働きがいのある」という表現の中に「風通しのよい」が含まれているため、修正する。

(空地委員)

へき地指定期間を満了した指定教職員とは、どういう意味か。

(稲次教職員課長)

へき地で勤務している教職員のことである。期間を定めて赴任させ、満了した教職員の異動については、勤務地の希望について配慮するという意味である。

(西上教育長)

分かりやすい表現に修正したい。

## (2) 令和2年度兵庫県下の公立学校児童生徒の問題行動・不登校等の状況

(清水委員)

コロナ禍で学校が子どもたちの日常の大きな部分を占めていることを改めて実感した1年だった。問題を抱えている子どもたちの生活リズムが崩れ、問題行動につながる事例もあった。また、問題を抱えた子どもに対し、親や友達、教員が気づく機会が失われ、気がついたときには大きな問題となっていたことも経験した。

(村田義務教育課長)

教員もマスクがあって表情を読み取りづらくなっていることもあるかと思う。子どもたちの状況をしっかりと観察することが重要と考える。

(西上教育長)

現在、不登校の子どもたちが専門機関へ相談をしている割合は、半分程度しかない。もっと相談してもらえる工夫が必要と考えている。

(清水委員)

専門機関に相談に行く人は、現状を何とかしたいという気持ちもそれなりにあり、改善に向かっていけると思う。問題は、そもそも自分が問題を抱えているという意識のない人で、精神科医等にサポートしてもらえないと解決が困難なケースではないか。

(横山委員)

起立性障害など心身の健康面の問題により不登校になる生徒に対し、サポートできたらと思うが、教員間での情報共有はされているのか。

(村田義務教育課長)

子どもの状態や家庭状況を必ず教員間で共有している。また、生徒指導委員会等でどんな対応ができるかを話し合い、情報共有を図っている。不登校の子どもは、様々な要因が絡み合っているため、この調査結果の分類と、子どもの実態が少しずれている場合も考えられる。

(空地委員)

最近、ヤングケアラーの問題が話題になっている。中学生で20人に1人と予想以上に多いと感じているが、そういった学校へ来たくても来られない子どもたちの調査は県でしているのか。

(西田高校教育課長)

調査は、教育委員会ではなく、福祉部局で実施している。ヤングケアラーの定義が定まっていない状況であるが、大切なのは、教員が児童生徒一人一人の状況や課題を捉え、福祉部局やスクールソーシャルワーカーにつなげていくことではないかと考える。

(西田教育次長)

教員だけで対応するのは難しい問題のため、担任を中心に教員間で情報を共有し、福祉部局等につなげていくことが最善かと考える。

(空地委員)

学校でも生徒をしっかりと見て、対応して欲しい。

(牧村委員)

暴力行為の件数が中学校と比べて高校が圧倒的に少ないのはなぜか。

(村田義務教育課長)

小学校、中学校の児童生徒は、自分で感情をコントロールすることが難しい面がある。高校生になると、進路について考えるなど自分が今後どうしたいのかが明確になり始めるため、暴力行為の件数が減っているのではないか。中学校では、2年生が中だるみの時期で最も増える傾向にあるなど、子どもたちの心理が影響しているものと思われる。

(西田教育次長)

暴力行為については、昔は高校生が一番多かったが、テレビやネット等で様々な情報が入るようになったため低年齢化しており、小学生の件数が増えている。

(清水委員)

昨日、高校生の大麻使用のニュースがあった。一昔前と比べて大人しくなった高校生が、薬物のターゲットにされないか危惧する。

(西上教育長)

薬物の問題については、引き続き注意していく必要がある。

## 8 閉 会

以 上